

大町病院を守る会会報

No. 45

2016年3月発行

大町病院を守る会

発行責任者北村喜男

やさしいお声掛けに心地よい
何とせいたくな毎日であったか

「ありがとうメッセージ」届く

2月5日病院内におかれているありがとうメッセージポストを開扉しました。やっと文字が書けるようになったお子さんから高齢者の皆様まで沢山の感謝のメッセージが寄せられていました。

献身的な医師・職員への感謝の気持ちがしたためられていました。また便せんにも心温まる感謝の思いを綴った手紙も頂きました。先生個人あてのメッセージは直接先生方にお渡しするとともに会報に掲載させていただきました。また数回に分けて、院内にも掲示いたします。なお氏名はお子様は実名で、成人はイニシャルで、原文のまま掲載しました。なお提言は病院へお渡ししました。



三階東病棟職員の皆様 三十三日間
大変お世話になりました。誠にありがとうございます
ございました。私は八十年生きてまいり
ましたが健康に恵まれ 初めての入院で
ございました。

看護師さんはじめそれぞれの職種の方の
笑顔とやさしいお声掛けに何と心地よい
ぜいたくな毎日であったかと、この間
私は心を澄まし、体を癒し、生気を取り
戻した思いでございます。

それ私も病の苦痛に伏せている患者で
なかつたこともありましょう。そして
日々 職員の皆様が誠心誠意患者のため
と昼夜おしまずとめておられる姿に深
く感銘いたしておりました。

これからもお一人お一人健康であられ、
私たち大町市民のための安全安心に医
療を担ってくださいますよう心から願っ
ております。

今日はただ、「ありがとうございます」の
言葉しかございません。厚く御礼申し上
げます。ご機嫌よう。

一二月十一日

N・F

職員の皆様へ

【ありがとうメッセージ】

♡長男出産の時にお世話になりました。産科が再開してくれてとてもうれしいです。また産科のお世話になれるようになりたいです。次女の出産では他院のお世話になりましたが大町病院での対応が(特に産後の)とてもよかったと知りました。産科の先生 助産師さん看護婦さん頑張ってください。(匿名)



回収されたメッセージポスト

♡深松先生がお元気で 嬉しかったです ありがとうございます (K・H)

♡皆様 いつもお世話になりありがとうございます。

わがままな父で、皆さんにはさぞご不快な思いをおかけしていることと存じます。申し訳ございません。どうぞよろしくお願い申し上げます。(302 Kの娘より)

♡いつも優しく親切に接していただき感謝しています (M・M)

♡10日間入院ありがとうございました。ナースの皆さん、リハビリの皆さん 大変親切にしてください感謝あるのみです。またお食事が真心こもった美味しいこと、次のメニューが待ちどろしいかったです。素晴らしい料理でした。皆様の愛される地域の病院としてますます発展されることを祈っています。乱筆にて失礼します。

(T・R)

♡先生、看護師さんも 皆さん 親切で 安心して受診できました。ありがとうございます。(匿名)



雪の塔づくり競争

♡皆さん親切で 安心して過ごすことができました。ありがとうございました。(I・H)

♡スキーで5才の子が骨折しました。当直医の先生もとても優しく、(月)は無料でマッサージをうけれ、スタッフの方々もあいさつをしてくれとても！いい病院でした。救われました。(H・T)

♡外科病棟の皆様

布団カバーまで直してもらうなど、看護師さんの心遣いが身に浸みました。ありがとうございました。

外科の先生方もとても優しかったです。(K・S)



雪玉入れ競争に興じる

♡内科三浦先生へ いつもお世話になっております。足のエコー検査をしていただきありがとうございました。おかげ様で信大より入院の日程のお電話をいただきました。三浦先生のお世話になります。毎週松本よりおいでになり遠い所ごくろうさまです。よろしくお願い申し上げます (H・H)



♡整形病棟の皆様

明日退院します。11日間お世話になりました。伊藤先生をはじめ、山田さん、宮田さん、たくさんの看護師さんがとても親切、優しい対応ありがとうございました。

入院は初めてで、最初は動けないし不安すぎて早く帰りたかったですが、今はちょっとさみしいです。おかげ様で腰もすぐよくなりました。何もお返しすることできなくて申し訳ありませんが、本当に感謝しています。誠意のあるご対応ありがとうございました。みなさんお忙しいと思いますが頑張ってください。(Y・E)

♡子供たちより

病院で働いている方へ ・おやすみのひにみたくてありがとう。10がつ11にち (なかざわ・みこと)

- ・いつもなおしてくれてありがとう。ほんとだよ。(あい)
- ・おじいちゃんがかんごしさんとお医者にありがとう。

お父さんとお母さんへ

- ・わたしに、いつもごはんやせんたくやいろいろなことをしてくれる父と母ありがとうございました。(I・O)

♡感謝

あとわずかと告げられて、家族で願ったように苦しまず旅立ちました。父が亡くなりもう半年。父は最後の奉公と思ったのでしょうか、年に1回行われるという口腔ケアの研修のモデルになるという決意をし、臨みました。この研修会に参加させてもらったことは、父は、最先端の口腔ケア治療ということで嚥下咀嚼機能が回復しました。今回専門の先生の治療を受けた父の姿を通し末期患者であっても手厚い看護によりつらさが軽減することを知りました。父と一緒に研修を受けたのも最初で最後の良い思い出です。

父の死期についての説明があったときには、父の死はあり得ないと頭の中は混乱。いっぱいいっぱいだった私を、廊下で黙って支えてくださった看護師さんのおかげで、父に寄り添いがんばろうと思いました。毎日父の所へ寄ると、近くで会話されている病棟の職員さん同志のお互いの忙しさを思いやる言葉がけが、父も母も病院にいる手を忘れたひと時でした。

適切な相談対応、終末治療、看護をして頂いたことで、今、父の居ない淋しさより、父と一緒に過ごせた良き思いでが日ごとに増えています。これは、ひとえに職員全員で暖かく接して下さったからです。厚く御礼申しあげます。本当にありがとうございました。(匿名)

【ありがとうメッセージ 以上】





雪上交流会参加者で記念撮影

ドテポッコと和かんじきで雪上ハイキング 雪の塔作り、雪堀、そりリレーに宝探しで雪上交流



スノーシューを説明する渡辺さん



和かんじきを履き、雪上ハイキングする高木先生

1月31日（日）旧大町スキー場裏山の中山高原で守る会主催の雪上交流会が開催されました。役員・会員の力と「ぐるったネットワークネイチャーガイドグループ」の支援を受け実施しました。晴天に恵まれ、50名の参加者はそり遊びや雪上車に乗車しての雪原遊覧と和かんじきを履いての自然観察・ハイキング、スノーシューの使い方講習、スノーモービルに引かれていく連結そりの「ドテポッコ」、そりすべりを楽しみました。雪原では粉雪で固めることが困難を極めた雪の塔作りで高さを競ったり、手を使っての雪堀、雪玉入れ、そりのリレーゲーム、宝探しを楽しみました。昼食は鹿の肉を使ったジビエカレーと山菜やキノコの入った豚汁にお代わり自由で舌鼓を打ちました。食事の後参加者全員に当たる抽選会が行われました。賞品は豪華粗品のナンセンス賞品が盛りだくさんで大笑いしました。参加者の感想は好評で「子供より親のほうが楽しんだ。」とか、「来年もやってほしい。」「全部楽しかった。」等の声が寄せられました。農園カフェラビットさんには大変お世話になりました。感謝申し上げます。

「人間ドック」7月から新しくなった健診センターで見てもらったよ

1日ドックは半日で済む スピーディーな流れに驚く

1月5日、大町病院で日帰りの人間ドックを受けた。

南棟「さくら」2階健診センターへ。コンシェルジュが開放感のあるラウンジへ案内、「到着順に受付・・・・・・・・」

今回受診するのは国保コース。市の助成額は15,000円（これは国保加入者65歳から74歳までの助成額、28年度は20,000円に増額）更衣室に案内され、健診着と名札を渡され、着替え。

検査項目は

■身体測定 ■血液検査 ■視力検査 ■眼底・眼圧検査 ■聴力検査 ■血圧測定 ■尿検査
■便検査 ■胃検査（胃カメラ） ■腹部超音波検査 ■肺機能検査 ■胸部X線撮影 ■心電図検査 ■内科診察 ■結果説明

健診料金は36,000円。（国保助成額含む）ほかに脳など様々なオプション検査も用意されている。

問診のあと、検査開始。心電図などの生理検査もワンフロアで受けられ、センターの外での検査はレントゲンと胃カメラのみ、検査動線が格段に短くなり、他の患者さんと顔を合わせることなく、スムーズに検査が進んでいく。

特に苦手な胃カメラは「プロポフォール」という麻酔注射を打ち10秒程で眠ってしまった。検査は、肩をたたかれ目が覚めた時には何の苦痛もなく済んでいた。検査後、総合判定していただいた

太田先生は、「体重が減っていませんね。減らしてください。」それまで何年も体重は一定に保っていたことを自慢？していた私は「ギャップン」。正午には1階のレストラン、「ビアンモール」で美味しい食事をして日程はすべて終わり。スタッフの皆さんありがとうございました。日帰りドックは半日ドックといってもいいくらい早い対応をしてくれる。早い帰宅に家族が驚いていた。



健診センターの入る南棟「さくら」

人間ドックランチ（人間ドック受診者限定）

出されたランチお弁当お品書き

- ・豚ロースの冷しゃぶ（生姜ゴマソース）
- ・鮭の幽庵焼き
- ・なすとかぼちゃの揚げ焼き
- ・水菜とごぼうの塩麹きんぴら
- ・トマトと玉ねぎのマリネ風サラダ
- ・ご飯
- ・お味噌汁
- ・季節のフルーツ



国保加入の方は市から助成金が出ます (大町病院・あづみ病院で受ける場合)

大町市では人間ドックを予約したら事前に3番の窓口(国保年金係・内線424)で印鑑とドックを受ける日時を確認できる書類、保険証を持参し、申請用紙を提出すると、助成券が渡されます。これを病院へ提出してください。金額は検査によって異なりますが、日帰りドックで受けると64歳以下は2万円、65歳以上は1万5千円受けることができます。(28年度からは年齢に関りなく2万円)脳ドックを加えるとさらに1万円が加算されます。脳ドック単独では(特定検診と合わせ受けると)1万8千円が助成されます。その他の医療機関で受ける場合は保険証、印鑑、領収書、受診結果、振込先のわかるものを持って申請をしてください。詳しくは大町病院広報誌「きらり」3月号に特集されています。

医師、研修医と研修学生が懇親会で交流

1月20日、病院近くの焼き鳥専門店の「とりしん」で高木副院長と総合診療科の實近医師、信大医学部学生の池谷さん(5年生・大阪)、林田さん(5年生・奈良)尾田さん(5年生・千葉)、初期研修医の依田さん(内分泌内科・長野市)、守る会から中島さん、高橋さんが合流し交流を深めました。このお店では先生方に人気の焼き鳥はもちろん焼きギンナン、鳥わさ等を食べながら交流しました。大町を忘れずにまた戻ってきてくださいとお願いしました。



新規加入・会費納入ありがとうございました。 新規加入者：内川よし子

会費納入：松田富子 松井和子 島田剛志 前田敏博 倉科健夫 伊藤四郎 ハーヴェスタ・クリエーションズ 松本武子 大町病院労組 澤渡勇治 平林良一 渡辺逸雄 川上節子 牧野芳子 沼田修治 鳥屋寿和 西沢富江 伊藤芳行 最上正 宮坂陽一 磯貝匡弘 真島康 塩入優子 塩入博仁 奥村印刷所 長野県理容生活衛生同業組合大北支部 藤巻繁人 津滝俊幸石川智朗 山下好隆 伊藤甚次 青木亮佐 柏原一正 田中美智子 藤原賢司 横田孝穂 芹沢久美子 縣信 平林千恵 北原靖朗 林春美 紺野桂子 橋井弘治 遠藤鷹一 武内元雄 吉田弘巳 赤羽孝子 松田俊郎 吉沢伸 鈴木幸子、種山喜和夫、倉科健一、帯刀千景、輪湖つた枝、江津咲江、遠山吟子の皆さんです。

今後の予定 4/未定 幹事会(病院祭対応) 4/25(月) 幹事会(総会対応) 5/8(日) 午前9:00 プランター花植え 5/8(日) 午後2時~守る会第7回総会・公開講演会 5/15(日) 第6回病院祭

フェイスブックで意見交換する覆面座談会

大町病院は現在、医療サービスやスタッフ、施設・設備、接遇等で大きく改善され充実してきています。しかし困難を伴う課題の経営赤字は依然大きく累積赤字は10億円となり改善されていません。新年度は9億4千万円余が一般会計から支出されます。大北地域の人口・交流人口を増やし、全職員と全市民で真剣に改善に取り組んでいかなければならない課題です。フェイスブックで年末から年始にかけて先生方の意見交換がありました。重要な論点が話されています。黙っていても前へ進みません。みんなで考えましょう。自分のできるところから取り組みを進めましょう。住民等の利用促進と、職員一人ひとりの努力がなければ市民の同意を得続けることは難しくなります。以下はフェイスブックで交わされた議論です。関係者の同意を得て掲載させていただきましたことに感謝申し上げます。

◆今年最後の書き込みです

2015年もあと2時間足らずとなりました。最近時間のたつのが早く感じますね。年のせいでしょうか。あっという間の一年でした。病院の経営状態は依然厳しいものがありますが、数年前と比べて、医療の内容は確実に進化しています。

関口総合診療科の加入により、内科の受け入れ、急患の受け入れ、総合的な医療のレベルは格段にアップしました。そして何よりも一番大きな変化は、学生や研修医が多く出入りするようになったことであり、これはまさに関口先生のおかげであり、感謝しております。

若者から元気や刺激をもらう毎日です。太田先生が来て健診センターが一軒したこと、リハビリ部門が充実したこと。青木先生が来て脳外科が再開し、脳卒中のかんがりの患者が大北で迅速に治療できるようになったこと。これらも大変大きな変化で当院の活性化、地域医療の充実に役立っています。深松先生の復帰、海野先生の着任で産婦人科が再開したことも住民の悲願であり、大変大きな出来事でした。5東の地域包括ケア病棟が1月から本格稼働となりますが、これにより入院患者が増え、病棟稼働率が上昇し、急性期の7対1病棟の維持ができればと思われます。3東、4東は混合病棟となり、ドクター、ナースにとっては負担になっているかもしれませんが、徐々に慣れていくでしょう。2016年はどんな年になるのでしょうか？1月から総合診療科に新しく金子一明先生が着任します。大町病院に新しい風を吹き込んでくれることでしょう。今年1年お世話になりました。来年が職員のみなさん一人一人にとって、大町病院にとって、すべてのみなさんにとって良き年となることを祈っています。



◆あけましておめでとうございます 今年最初の書き込みです

昨夜は、急性胆嚢炎で新年最初の緊急手術をしました。

現在当院は麻酔科の常勤医が不在となっており、手術をする際は信大から麻酔科医に来てもらって手術を行っています。昨日の緊急手術も信大の麻酔科の先生が来てくれました。ありがとうございました。昨年までは麻酔科の常勤医が一人いましたが、現在は不在であり、手術があるときは信大から来てもらって手術をしています。麻酔科医も足りないんです。

当院で手術をするのは、外科以外に産婦人科、泌尿器科、脳外科、整形外科、皮膚科がありますが、いずれも一人ないし二人という体制です。したがって風邪をひいても休んでられない、学会にもなかなか行けないという、かつかつでやっている状態なんですよ。新臨床研修制度の導入以降、大学の医局はどこも慢性的に人が足りない状態なので、当院の一人や二人でやっている全ての科に言えることですが、誰か病気や定年で欠員が出た場合、その代わりに大学が派遣してくれるかと言えば、かなり難しいかもしれません。医師確保というのはなかなか大変な時代なんです。さて、今夜は婦人科のお助けマン、海野先生と食事に。ビールを飲みつつたくさん食べて、いろいろと話も盛り上がり、楽しい2時間でした。1日からずっと仕事はしていますが、通常の外来業務などは明日からスタートです。また新しい学生さんや研修医、そして新しいスタッフも加わります。楽しく仕事していきましょう。

◆自治体病院の9割が赤字経営と言われてます

年末に公表された長野県の自治体病院の2014年度の決算を見ると、やはり19ある自治体病院のうち、純損益が黒字だったのは3病院のみで、当院も含め残りの16病院が赤字でした。赤字額は3000万円～28億円までで、全19病院の合計の純損益は123億円の赤字です。

確かに自治体病院も、経営改善のための努力は必要です。しかし9割が赤字というのはやはり個々の病院の院長や職員の怠慢というだけではなく、日本の医療システムに問題があるのです。病院の収入は国の診療報酬制度によってコントロールされており、特に不採算部門も担っている自治体病院においては、病院が頑張ってもなかなか黒字にはならないのです。ではどうするか？国を動かすことはなかなかできません。その地域において、自治体病院を必要だと思うのであれば、そのためにどうしたらよいか、考えていく必要があると、、、

松下政経塾の卒業生で、元総務省の役人だった津曲さんのレポート「公立病院の赤字は何を意味するのか～自治体病院経営から考える公共の意味～」はよく整理されていて、勉強になるな～

◆本当に～赤字でも他も赤字なんだ～と安心してしまう自分も怖い～

◆歴史的に予算さえ付いてしまえば使い切る体質だとか、年功序列の給与体系でベテランの高給取りが多いとか、公務員独特の構造的な問題もあるのでその辺はなんとかした方が良くとも思うことは思うけど。

◆ただ、営業努力をして収入を増やすと、結局医療費が増大して自治体の首を絞めてしまうという呪縛もあるわけで、公立病院が黒字化したからといって単純に喜び訳にもいかないんですよ。

◆確かに医療機関の先駆けとして効率を考えることが必要ですね。NHKで英国で医師の収入に疾患予防ポイント着けたら認知症や脳卒中が減った!!と放送しました♪そんな形が一番良いのですが

病院の玄関に福寿草の花が咲きました

2月初旬、大町病院の正面玄関入口に福寿草の花が開いた鉢植えがプレゼントされました。

守る会が贈り始めて4年目になります。来院者が覗き込んで心を和ませています。

